

## 助動詞の使用例——澤村斉美歌集『夏鴉』より——

最近読んだ歌集から（時間）をどのようにあらわしているか、という点に注意して歌をえらび、話してみましよう。

雲を雲と呼びて止まりし友よりも自転車一台分先にゐる

澤村斉美『夏鴉』

友人と二人で自転車をこいで走っていたのでしよう。友人が「あ、雲だ」といって自転車をとめたので、先を走っていた自分も自転車をとめて、ふりかえって友を見たあとで空を仰いだ、といった情景が思いうかびます。わたしは、新鮮な感じのするいい歌だと思つてよみました。

この歌の「止まりし」の「し」は、助動詞「き」の連体形にはちがいありませんが、そんな古典文法の知識とは直接関係なく、ごく自然に「ちよつと前の過去」を示すことばとして使われています。むしろ「し」というイ母音を含む音韻（ことばのひびき）の方が大切なように思われます（このことは「止まった」とか「止まりた

る」といった言いかえ語と比べてみればわかることです）。

この歌では「自転車一台分先にゐる」がおもしろい言い方で、つまり、距離をさすのに「自転車」の長さを用いています。「先にゐる」とは、ある種の優位を示すことばですが、友人と自分との間柄をほのかに、また、ジョークのように示しているともとれます。

深い深い倦怠感のプールへと投げる花束浮いたではないか

すこしむずかしい歌をとり上げてみました。この「倦怠感のプール」とはなんでしょうか。暗喩として用いられているともとれます。自分の心の中には「深い深い倦怠感」からなる「プール」がある。今、自分は、その倦怠感にたえ切れずに、花束をそこへ投げ込んでみた。そうしたら、沈むかと思つた花束が、心の中の「プール」から浮き上つて来たではないか。そのおどろきのため「倦怠感」から目が覚められたとまでは言っていないませんが、花束の浮上が、心理の上である効果を生じたのはたしかなのです。



むろんこれは、プールが現実にあつて、そのプールの印象を「深い倦怠感」として受けとった作者が、現実には、どこかでもらった「花束」を、たわむれに投げてみたところだという風にも解釈できます。実景として受けとりたい人は、そう思つて読んでもあやまちではありません。

ところで〈時間〉の表現ですが、「投げる」というのは、ふつうは動詞の現在形と考えられています。しかし、状況からみて、花束を投げたのは、ほんのちよつと前の時間帯のこと、つまり、ほんの少し前の過去であり「浮いた」は、過去形でありますが、実は「投げる」よりもあとのことでもあります。こうした使い方も、もう現代短歌ではごくふつうです。「投げる花束」は、「投げた花束」と同じことなのですが、おそらく「投げた」と「浮いた」の「た」の重複が、無意識のうちに避けられて「投げる」と現在形が使われたのかと推察されます。

帰らないつもりの家へ帰りゆく鴉のからだ黒いだらうか

これも、たぶん、読む人によつて解釈の分かれそうな歌ですが、あえて取りあげてみました。まず「帰らないつもりの家へ帰りゆく」というのも矛盾を含んだ言い方です。「夏休暇」というタイトルでまとめられている歌であり、「夏休暇 弟の背はもう伸びず薄き毛布の下に伏したり」という歌もありますから、作者は夏休みを利用して実家へ帰省したのでしょう。

「帰らないつもりの家へ帰りゆく」は「帰らないつもりだった家

へ、今考えがかわつて帰省していく」という意味でしょうか。わたしはそうは思いません。「もうそこへは帰つて行かないつもりに今はなっている。そう決意したその家へ、これが最後の帰省と思つて帰つてゆくのだ」というふうに解釈してみました。だから、この一、二句にはかなり大きな省略があります。下の句の「鴉のからだ」は、たぶん、鴉が夕暮れに巣へ帰つていくことに掛けた比喩で、自分自身を指しているかと思えます。「黒い」は、汚れているといった感じに使われています。

水馬が水面を渡りゆくやうに年譜を奥へとたどつて行けり

誰かの「年譜」を読んで、その相手のことを調べている状況と受けとつてもいいと思えます。「水馬」はミススマシで、すいすいと、しかし時々立ちどまりながら水面を渡つてゆきます。「やうに」ですから、その水馬の渡るみたいに、自分は、ある人の「年譜」を調べて、その人の事跡の「奥」の方へとたどつて行く。この「奥」は「年譜」を手がかりにして、その人の「奥」へとすすむともとれますし、「年譜」そのものを深読みするとも受けとれましよう。

そこで「行けり」の「けり」ですが、古典文法にいう回想の助動詞で「ごく自然に見出された、過去と現在とのつながり」を示すのに使うなどと文法書では説明しています。しかし、この歌では「けり」という、きっぱりした音韻のひびきに重点がおかれているので、ごく自然に使われて、いい味を出しています。「行きぬ」「行つた」などの言いかえと比べて、あじわつてみて下さい。